



平成31年3月期

ソフト99コーポレーション

第2四半期決算説明会

平成30年11月28日

- 本プレゼンテーション、および引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれております。
- この将来予測に基づく記載や発言は、製品の需要変動、景気動向、天候およびその他のリスクや不確定要素を含みます。
- 本プレゼンテーションおよび、引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私たちは、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。
- またこの記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が私たちの現在の期待とは実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となりえます。

I : 企業グループの概要

株式会社 ソフト99コーポレーション

創 立	昭和29年（1954年）10月28日
資 本 金	2,310,056,000円
代 表 者	代表取締役社長 田中 秀明
従業員数	209名（平成30年9月30日現在）
事業内容	自動車用・家庭用ケミカル用品の製造販売

当社主要製品の歴史

1969年
「ハンネリ」



1978年
「ボデーペン」



1987年
「タイネット」



1993年
「めりめりガラコ」



1999年
「フクピカwet」



2003年
「G'zoxシリーズ」



2006年
「メガネのシャンプー」







関係会社一覧



社名	所在地	資本金・出資金	議決権所有割合	関係内容
アイオン(株) 	大阪市中央区	482百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
アスモ(株) 	大阪市中央区	80百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
上海速特九九化工有限公司 	中華人民共和国 上海市	5,650 千米ドル	100.0%	役員の兼任
(株)ソフト99オートサービス 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)くらし企画 	東京都江東区	50百万円	100.0%	役員の兼任・不動産の賃貸
アライズ(株) 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)オレンジ・ジャパン 	東京都江東区	30百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)アンテリア 	大阪市中央区	10百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸
(株)ハネロン 	大阪府八尾市	33百万円	100.0%	役員の兼任

事業セグメントの概要



事業セグメント	サブセグメント	運営企業
ファインケミカル	カー用品（一般用・業務用）	 (株)ソフト99コーポレーション
	家庭用品等製品	
	海外事業	 上海速特九九化工有限公司
	海外カー用品輸入・販売	 (株)アンテリア
	TPMS企画・開発・販売	 (株)オレンジ・ジャパン
	電子機器・ソフトウェア開発	 (株)ハネロン
ポーラスマテリアル	産業資材	 アイオン(株)
	生活資材	
サービス	オートサービス事業	 (株)ソフト99オートサービス
	教習事業	 アスモ(株)
	生活用品等企画販売事業	 (株)くらし企画
不動産関連	不動産賃貸事業	 (株)ソフト99コーポレーション
	温浴事業	
	介護予防支援事業	 アライズ(株)

Ⅱ：連結業績の概要

連結業績（損益：対前年比較）

- 全ての事業セグメントで増収。
- 設備増強に伴う減価償却費の増加や人件費の増加などにより減益。

（単位：百万円）

	平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計	対前年比・増減額	対前年比・増減率
売上高	11,666	12,282	+616	+5.3%
売上総利益	4,453	4,333	▲120	▲2.7%
売上総利益率	38.2%	35.3%	▲2.9pt	-
販売費及び一般管理費	3,029	3,191	+162	+5.3%
営業利益	1,423	1,142	▲281	▲19.8%
営業利益率	12.2%	9.3%	▲2.9pt	-
経常利益	1,493	1,225	▲268	▲17.9%
税金等調整前当期純利益	1,498	1,227	▲271	▲18.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	990	831	▲159	▲16.1%

要約連結キャッシュフロー（対前年比較）

（単位：百万円）

	平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	829	511
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲440	▲284
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲292	▲263
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲0	▲0
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	96	▲37
現金及び現金同等物の期首残高	14,680	15,653
現金及び現金同等物の期末残高	14,777	15,615

減価償却費	333	379
設備投資額（※）	417	413

（※）有形固定資産の取得による支出

要約連結貸借対照表 (対前期末比較)

(単位：百万円)

	平成30年 3月末	平成30年 9月末	増減額		平成30年 3月末	平成30年 9月末	増減額
流動資産	23,548	24,008	+460	流動負債	3,819	3,287	▲532
現金及び預金	16,107	16,186	+79	買入債務	1,249	1,067	▲182
売上債権	4,025	4,192	+167	未払法人税等	573	370	▲203
有価証券	300	300	▲0	未払金・未払費用	1,182	1,364	+182
棚卸資産	2,897	3,122	+225	その他	813	485	▲328
その他	217	206	▲11	固定負債	3,417	3,374	▲43
固定資産	29,525	28,997	▲528	負債合計	7,237	6,662	▲575
有形固定資産	22,397	22,294	▲103	純資産	45,836	46,344	+508
無形固定資産	175	167	▲8	株主資本	45,101	45,721	+620
投資その他の資産	6,952	6,534	▲418	その他包括利益累計額	734	622	▲112
資産	53,073	53,006	▲67	負債及び純資産	53,073	53,006	▲67

連結ハイライト指標（対前年比較）



	平成30年3月期 2Q	平成31年3月期 2Q	増減
総資産（百万円）	52,008	53,006	+ 998
純資産（百万円）	45,251	46,344	+ 1,093
自己資本比率	87.0%	87.4%	+ 0.4pt
ROA（経常利益／総資産※）	2.9%	2.3%	▲ 0.6pt
ROE（純利益／純資産※）	2.2%	1.8%	▲ 0.4pt
総資産回転率（売上高／総資産）	0.22	0.23	+ 0.01
1株当たり純利益（円）	45.64	38.36	▲ 7.28

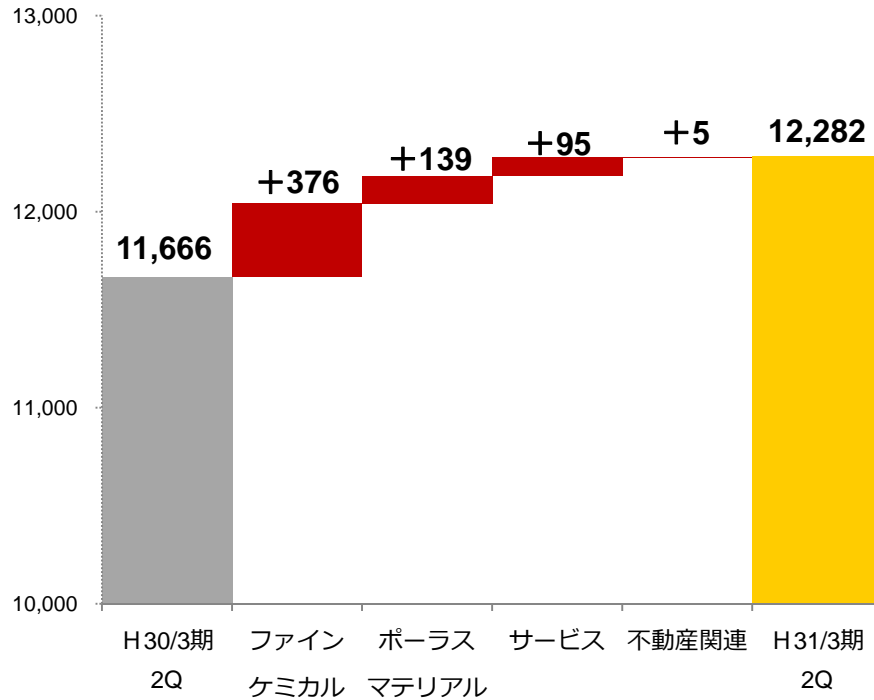
※ 利益は2Q時点の数値を使用しております。
 ※ 総資産は期首期末の平均を使用しております。

Ⅲ：セグメント業績の概要

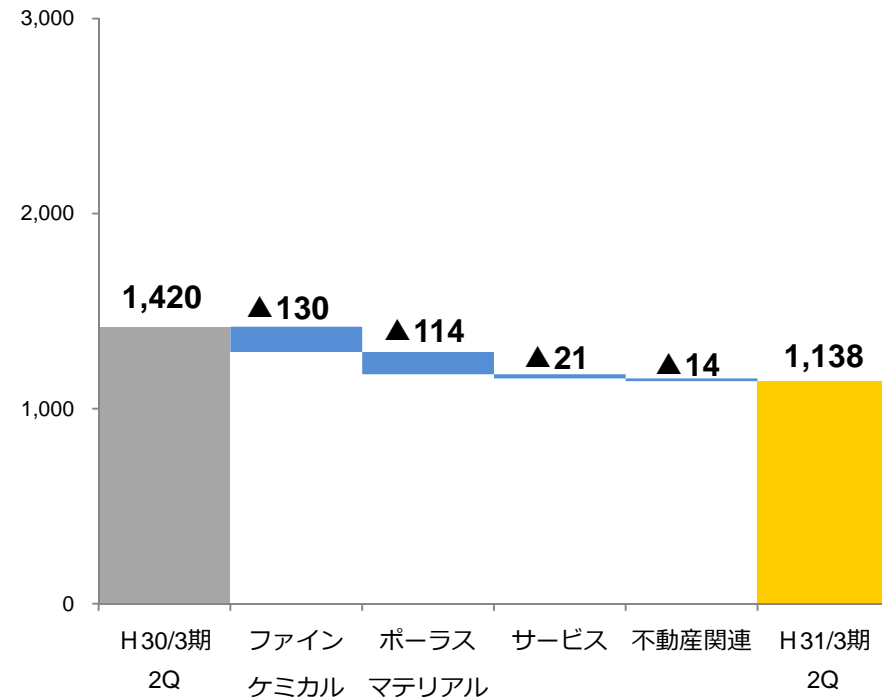
全体概況（損益：対前年比較）

- 全セグメントにおいて増収となった。
- 営業利益は設備投資に伴う減価償却費の増加などにより全セグメントにおいて減益。

セグメント別売上高増減（単位：百万円）



セグメント別利益増減（単位：百万円）



(注) 連結調整額除く

ファインケミカル（損益：対前年比較）



- セグメント全体で増収となったが、原価率の上昇や人件費の増加等により減益。
 - ✓ リペアグッズ、業務用製品販売が伸長。M&Aにより電子機器開発を開始。

(単位：百万円)	平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	5,719	6,095	+ 376	+ 6.6%
一般用：ボディケア	970	876	▲93	▲9.6%
一般用：ガラスケア	1,756	1,760	+4	+0.2%
一般用：リペアグッズ	1,173	1,251	+77	+6.6%
業務用	742	869	+127	+17.1%
家庭用品等	235	234	▲0	▲0.3%
海外事業	806	765	▲41	▲5.1%
TPMS：タイヤ空気圧監視装置	59	64	+5	+9.0%
電子機器	—	304	+304	—
その他（輸入販売・樹脂容器販売含む）	▲24	▲32	▲8	▲33.9%
売上総利益	2,740	2,716	▲23	▲0.9%
粗利益率	47.9%	44.6%	▲3.3pt	—
営業利益	730	599	▲130	▲17.9%
営業利益率	12.8%	9.8%	▲3.0pt	—

ポーラスマテリアル（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収となるも、設備投資に伴う減価償却費の増加等により減益。

- ✓ 産業資材では、半導体製造用途製品の国内向け販売とHDD製造用製品が拡大。
- ✓ 生活資材では、国内で自動車用製品の販売が拡大。

(単位：百万円)		平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高		2,756	2,896	+139	+5.1%
産業資材		2,015	2,102	+87	+4.3%
国内		1,064	1,114	+50	+4.7%
海外		951	988	+37	+3.9%
生活資材		741	794	+53	+7.2%
国内		345	384	+39	+11.3%
海外		397	410	+13	+3.3%
売上総利益		963	864	▲98	▲10.2%
粗利益率		34.9%	29.8%	▲5.1pt	—
営業利益		472	358	▲114	▲24.3%
営業利益率		17.2%	12.4%	▲4.8pt	—

サービス（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収減益となる。

- ✓ 自動車整備・钣金事業は輸入車ディーラーからの在庫が増加。各工場の構成を見直し処理能力改善。
- ✓ 自動車教習事業では大型車教習が増加したものの、研修事業の減少により減収。
- ✓ 生活用品企画販売事業においては主力の生協向け販売でヒット商品の開拓が進んだ。

(単位：百万円)	平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	2,477	2,572	+95	+3.9%
自動車整備・钣金事業	1,210	1,248	+38	+3.2%
自動車教習所	432	426	▲5	▲1.3%
生活用品企画販売	835	897	+62	+7.4%
売上総利益	604	611	+7	+1.2%
粗利益率	24.4%	23.8%	▲0.6pt	-
営業利益	91	69	▲21	▲23.9%
営業利益率	3.7%	2.7%	▲1.0pt	-

不動産関連（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収減益となる。

- ✓ 不動産賃貸事業は、建替えを行った支店社屋をテナント化したことで増収。
- ✓ 温浴事業は飲食メニューの充実やオペレーション改善などにより客単価が上がり増収。
- ✓ 介護予防支援事業では酷暑や大型台風による外出控えなどの影響を受け減収。

(単位：百万円)	平成30年3月期 2Q累計	平成31年3月期 2Q累計	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	712	717	+5	+0.7%
不動産賃貸	186	187	+1	+0.5%
温浴事業	499	504	+5	1.0%
介護予防支援事業	26	25	▲1	▲4.0%
売上総利益	145	134	▲11	▲7.9%
粗利益率	20.4%	18.7%	▲1.8pt	-
営業利益	126	111	▲14	▲11.8%
営業利益率	17.7%	15.5%	▲2.2pt	-

セグメント情報（セグメント別売上高・営業利益比較）



（単位：百万円）

売上高	平成30年3月期 2Q累計	全体構成比率	平成31年3月期 2Q累計	全体構成比率	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	5,719	49.0%	6,095	49.6%	+ 0.6pt
ポーラスマテリアル	2,756	23.6%	2,896	23.6%	+ 0.0pt
サービス・不動産関連	3,190	27.4%	3,290	26.8%	▲0.6pt
合計	11,666	100.0%	12,282	100.0%	—

営業利益	平成30年3月期 2Q累計	全体構成比率	平成31年3月期 2Q累計	全体構成比率	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	730	51.4%	599	52.7%	+ 1.3pt
ポーラスマテリアル	472	33.3%	358	31.4%	▲1.9pt
サービス・不動産関連	217	15.3%	180	15.9%	+ 0.6pt
(※) 合計	1,423	100.0%	1,142	100.0%	—

(※) 合計には調整額を含む。

IV : 第5次中期経営計画の状況

中期経営計画の概要（1/2：テーマとビジョン）



- 当中期経営計画においては、経営環境の大きな変化を事業拡大のチャンスと捉え、前中計で成果の出始めた事業の推進に加えて、さらに新しい市場へ飛び込む・新たな市場を創り出すことをテーマとし、将来の継続的成長に向けた布石の期間と位置付ける。

経営理念

■ 生活文化創造企業

- ✓ 『未来のあたりまえ』を発見する。
- ✓ 当社グループ普遍の経営理念として、第3次中期経営計画より継続。

経営課題

- ✓ 経営環境変化への対応
- ✓ 業容拡大のスピードアップ
- ✓ 余資活用による経営効率改善

中期計画 テーマ

■ SHIFT DOWN !!

- ✓ 自動車のようにギアを下げる（シフトダウンする）ことによって力強く加速しながらいち早く新しい市場へ飛び込む・新たな市場を創り出すことを目指す。
- ✓ 期間：2018年4月～2020年3月

中期計画 経営ビジョン

【自動車分野】

- 自動車産業グローバル化・自動車ハイテク化時代の到来に向け、新たな人とクルマの繋がりをつくる。

【産業分野】

- 表面改質と機能性精密多孔質体の技術を、幅広い産業分野での問題解決に活用する。

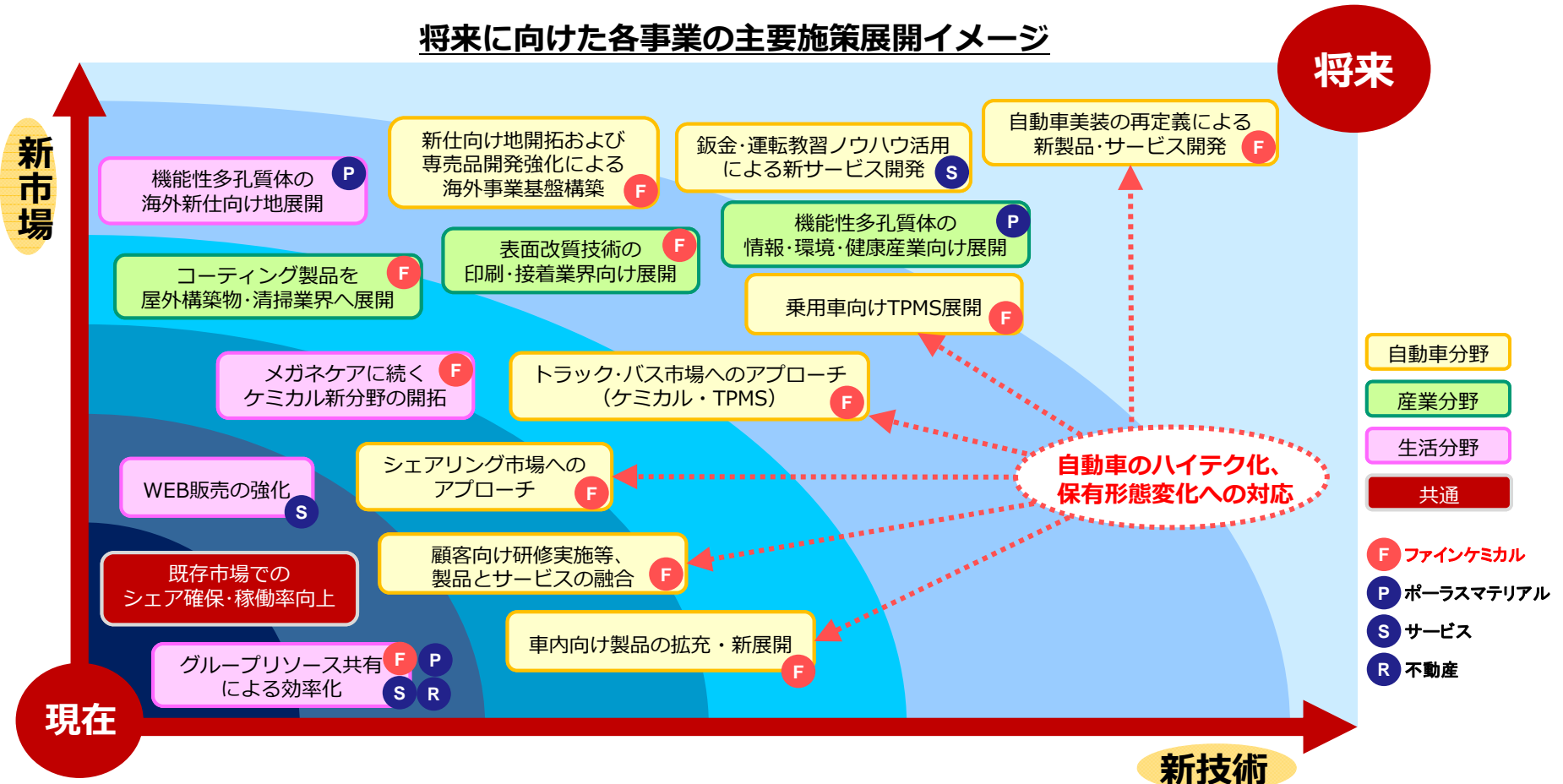
【生活分野】

- 日々の暮らしの中で起こる小さな悩み・ストレスを解消し、より快適な生活環境をつくる。

中期経営計画の概要 (2/2 : 主要施策)

- 経営基本方針に基づき、ファインケミカルセグメント・自動車分野を中心に、新市場に向けた取り組みおよび新技術への取り組みを順次展開する。

将来に向けた各事業の主要施策展開イメージ



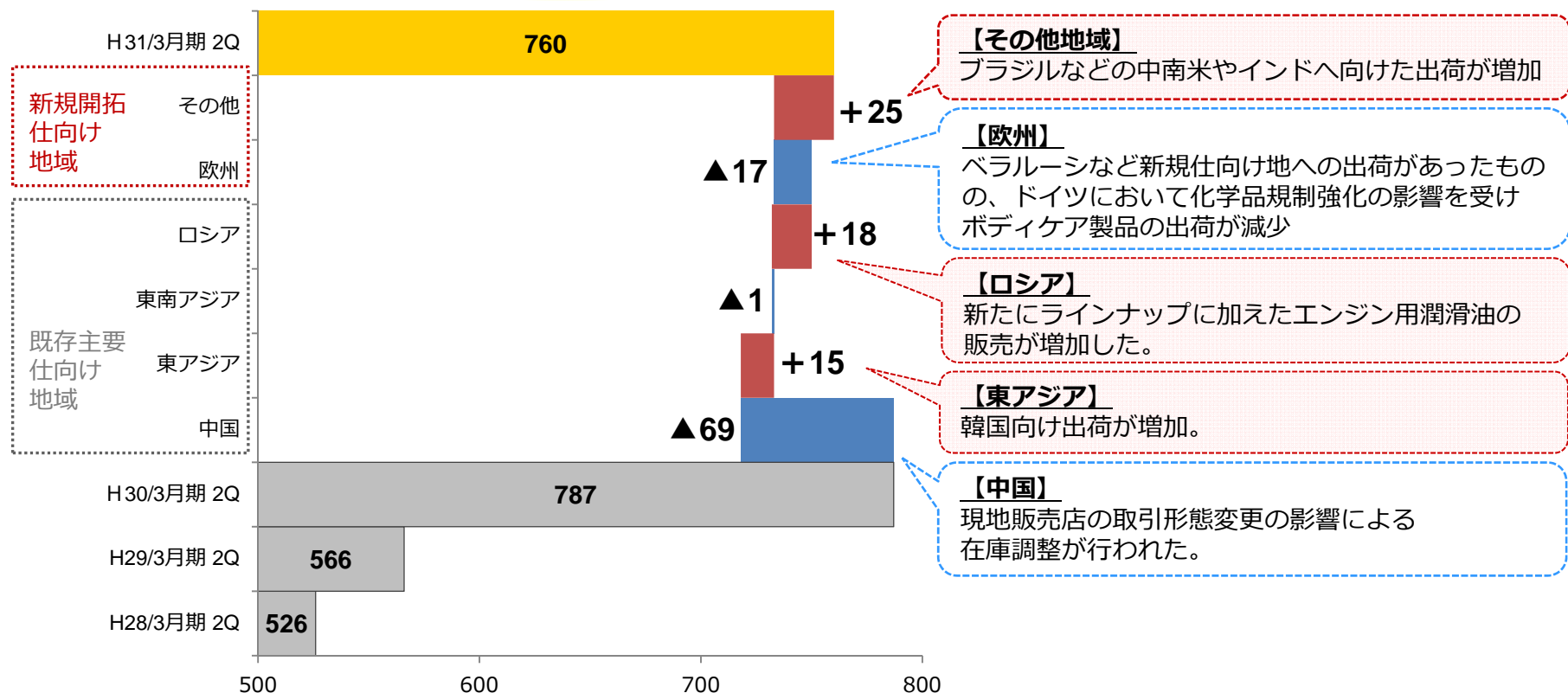
主要な成果 (1/5 : 海外事業基盤構築)

■ 【ファインケミカル】 新仕向け地開拓および専売品開発強化による海外事業基盤構築

- ✓ 新規開拓と専用品の提供強化により、既存仕向け地における落ち込みをカバー
- ✓ 新規仕向け地での販売を拡大することで、安定した売上確保が可能となりつつある。

海外事業 売上高推移 (4期比較)

(単位：百万円)



主要な成果 (2/5 : 車内向け製品の拡充・新展開 / 自動車美装の再定義)



- 【**ファインケミカル**】 変化する消費者ニーズに沿った製品提供の開始
 - ✓ 当期発売の車内向けケミカルの新製品や内窓にも使用できるガラスクリーナーの販売が増加。
 - ✓ 洗車の効率化を実現する新製品の投入で、洗車用品の販売が増加。

車内向け製品・ガラス用クリーナーの売上高推移

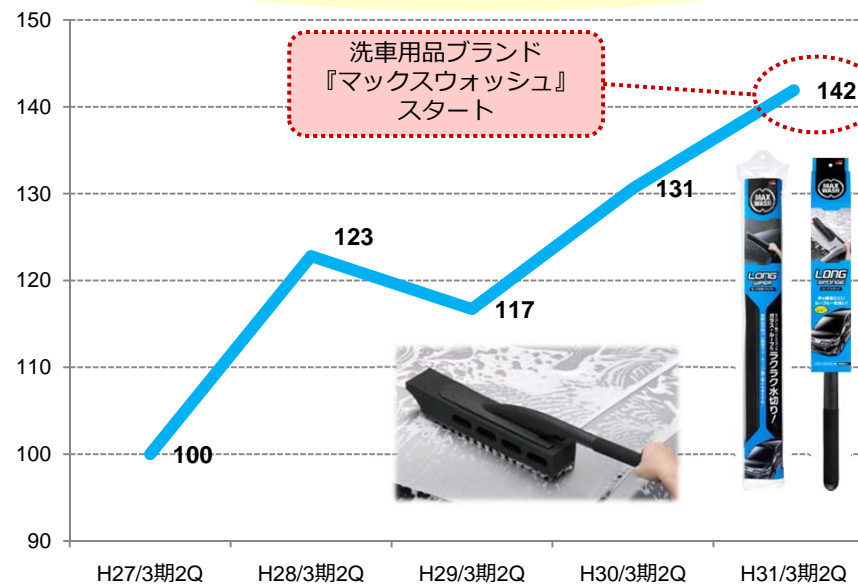
(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



- ①平成29年3月に車内向け製品ブランド「ルームピア」スタート。
- ②窓フクピカシリーズはフロントガラスの内側も簡単に清掃できる「ハンディワイパー」などの付帯品も好調に推移。

洗車用品の売上高推移

(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



- 車がホビーから移動手段へと移り変わる中、ミニバン・SUV・軽ハイトワゴンなどの増加に合わせて、洗車の時短・効率化のニーズに応える「マックスウォッシュ」シリーズをスタート。

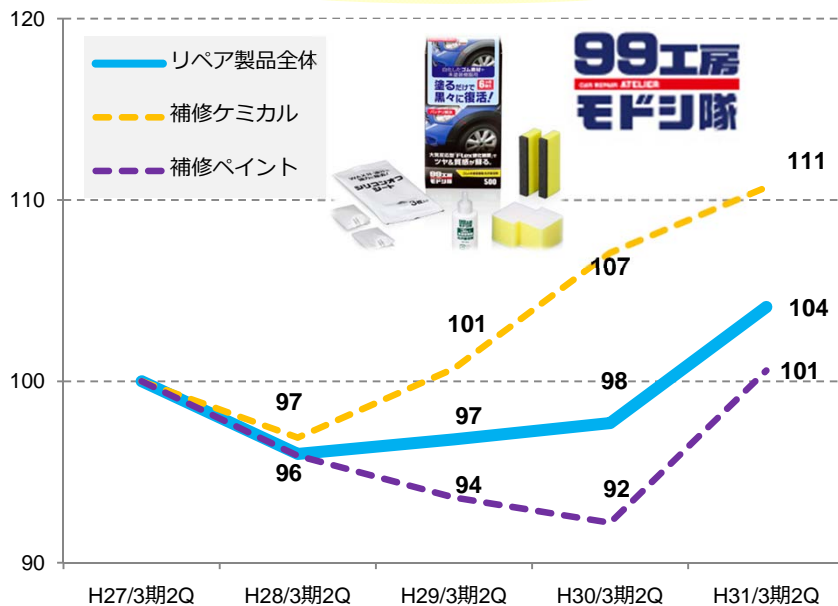
主要な成果 (3/5 : 既存市場のシェア確保①)

■ 【ファインケミカル】 リペア市場、ガラスケア市場のシェア確保

- ✓ リペア製品の簡易補修ケミカル販売が増加。また、インターネット販路を通じた販売も好調。
- ✓ 大型台風などによりガラス撥水剤の認知・必要性が高まる中、『ガラコ』シリーズの販売が増加。

リペア製品の販売推移

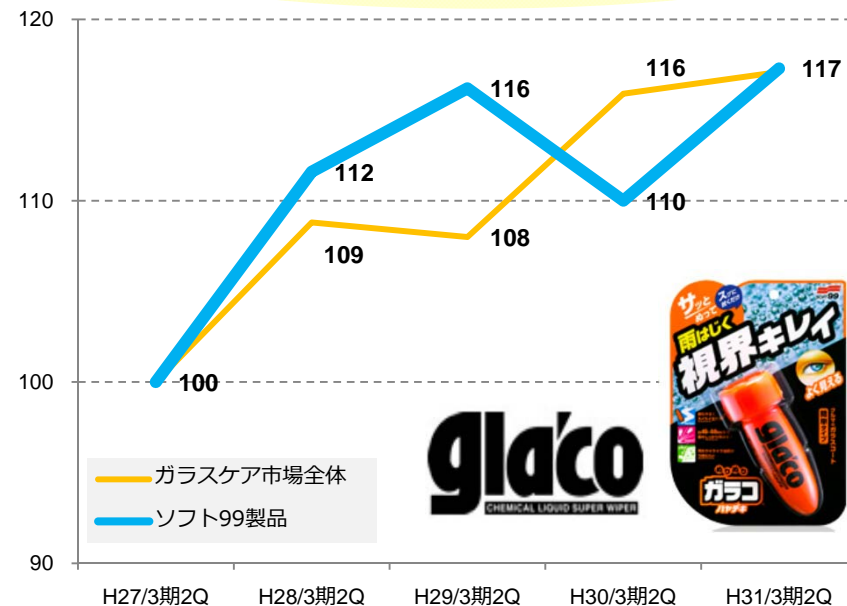
(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



平均車齢の伸長にあわせ、高車齢のクルマの古く傷んだ部分を再生する補修ケミカル『99工房モディ隊』シリーズが好調。

ガラスケア製品(ワイパー除く)の販売推移

(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



販売強化キャンペーンの実施や、雨天時の安全運転を訴求する売場作りを行った。

※ 出典：インテージSRI ガラスケア市場（ガラス撥水剤、ウインドウォッシャー液、ガラススクリーナー）2014年4月～2018年9月 販売金額を基に当社加工

主要な成果 (4/5 : 既存市場のシェア確保②)

■ 【ファインケミカル】 業務用製品販売の増加

- ✓ 中古車販売店向け、高付加価値品の提供を開始し販売が増加。
- ✓ 輸入車ディーラーのOEM製品として、小売店での販売が中心であったワイパーの納入を開始。

自社ブランドコーティング剤の販売推移

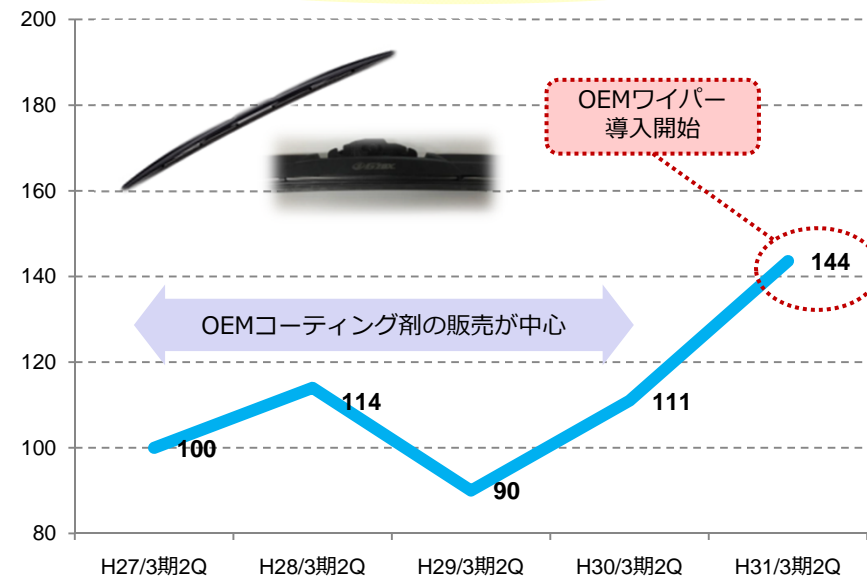
(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



取引先である大手中古車販売店に向けて、平成31年3月期より高付加価値コーティング剤を販売開始。

OEM製品の販売推移

(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



小売店での販売が中心であった撥水ワイパーを、平成30年4月より輸入車ディーラーに向けたOEM製品として納入開始。

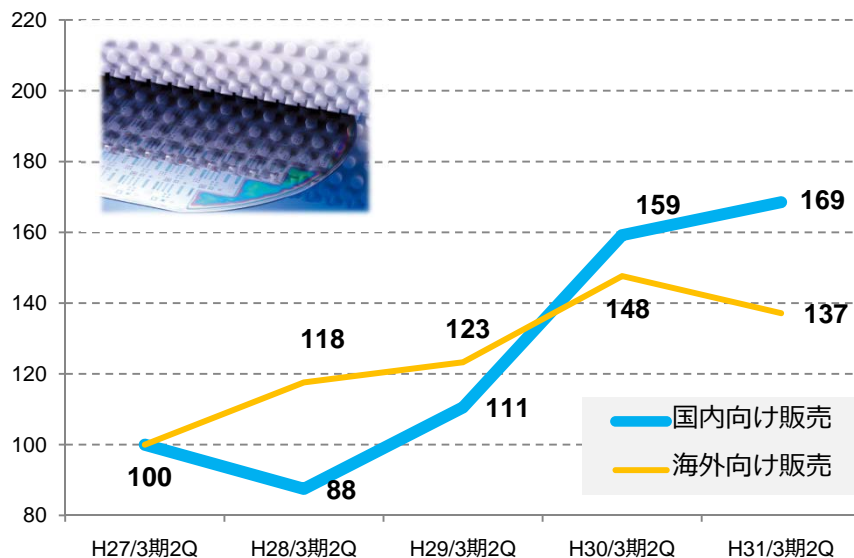
主要な成果 (5/5 : 既存市場のシェア確保③)

■ 【ポーラス材料】 産業資材製品の販売増加

- ✓ 国内では、半導体市場の旺盛な設備投資需要に伴い半導体製造装置メーカー向け製品の出荷が拡大。
- ✓ 海外では、ハードディスク製造工程で使用される研磨用砥石の出荷が拡大。

半導体製造用途製品の販売推移

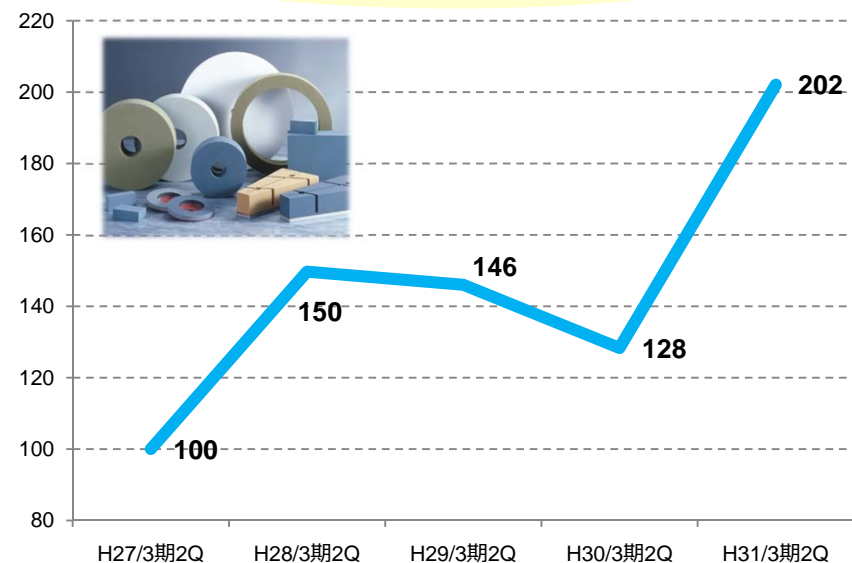
(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



IoT、自動運転などの技術開発が進む中で各国の半導体メーカーが設備投資をはかり増産を開始。国内の半導体装置メーカーに純正採用されている洗浄用部材の販売が好調に推移した。

ハードディスク研磨用砥石の販売推移

(平成27年3月期第2四半期の売上高を100とした指数)



近年のクラウドサーバーの需要拡大により、使用されているアルミ製ハードディスクの製造が増加。それに伴い弊社のハードディスク研磨用砥石の販売が伸長した。

取り組み中の施策 (1/5 : 乗用車向けTPMS展開 トラック・バス業界へのアプローチ (ケミカル・TPMS))

- 【**ファインケミカル**】 乗用車向けTPMS販売拡大と新業界への展開
 - ✓ 乗用車向けTPMSの新製品開発進行 (後付け型製品に加え、純正センサー補修交換型製品の提供)
 - ✓ トラック・バス向けTPMSでは、様々な業界における特殊車両やライトトラック用展開も検討。

乗用車向けTPMSのラインナップ強化への取り組み



【開発中※】
後付け型 (スマホ連動タイプ)

ソフト99車両情報管理アプリ



【開発中※】
純正TPMS補修交換型



トラック・バス用TPMSの新展開に向けた取り組み

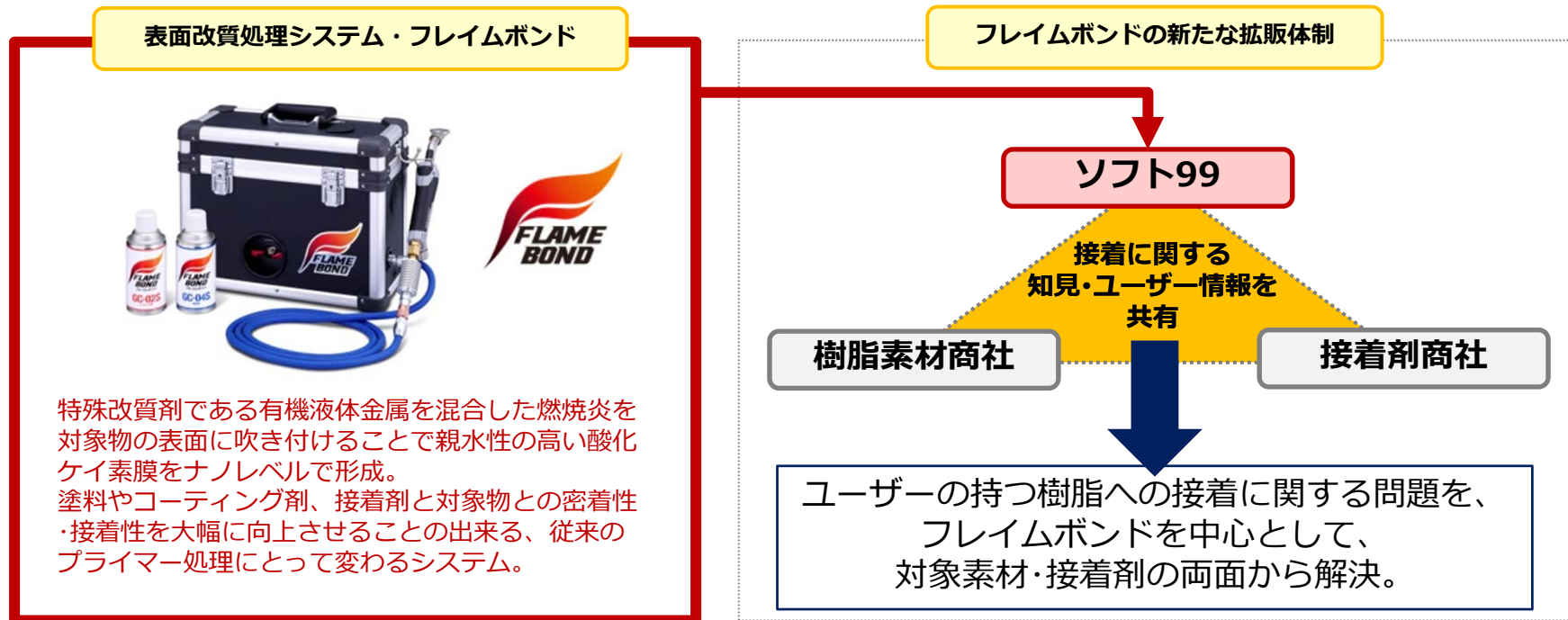
【開発中※】
特殊車両/ライトトラック等向けTPMS



※ 上記の製品画像は現時点で想定する製品イメージであり、最終製品の外観や性能を保証するものではありません。

取り組み中の施策（2/5：表面改質技術の印刷・接着業界向け展開）

- 【**ファインケミカル**】 表面改質処理システム・フレイムボンドの拡販に向けた取り組み。
 - ✓ 印刷業界向けには、業務用プリンタメーカー等との取り組みで一定の成果があがり始めている。
 - ✓ 当期は接着剤商社や樹脂素材商社と共同で、接着に関する顧客ニーズに対応する体制を構築。
 - ✓ 今後は単独では困難だったPP・PEといった難接着・難印刷素材に関する様々な問題解決を、幅広く効率的に行うことを目指す。



取り組み中の施策（3/5：機能性多孔質体の情報・環境・健康産業向け展開）



- **【ポーラスマテリアル】** ハイテク産業向け製品に続く事業の柱となる分野の確立を目指す。
 - ✓ 環境用途において、排水処理用担体の性能データの取得や高機能担体の開発を推進。
 - ✓ 医療用途において、既存製品からの横展開による製品提案を目指し、マーケティング・開発・営業リソースを強化。

環境用途製品展開拡大に向けた取り組み



▲マイクロプレス
PVAスポンジを使用した排水処理や脱臭処理用の微生物固定化担体。



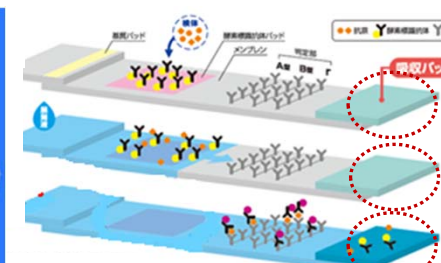
▲PCセパレーター
自治体の除染用途などに用いられている真空固液分離装置。

様々な環境下や各種微生物を用いた性能試験を実施。更に機能を向上させるため、産学共同研究や第三者との共同開発による高機能担体の開発を進めている。

医療用途製品展開拡大に向けた取り組み



▲病院クリーンルーム向け等の洗浄用部材としてPVAスポンジが採用。



▲インフルエンザ検査キット内部の吸液材としてPVAスポンジが採用。（画像はイメージ）

これまでのインフルエンザ検査キットや吸液ポット等への部材提供に加え、製品の横展開による新たな製品開発・ユーザー開拓による市場開拓を目指し、医療業界向けマーケティング・開発・営業リソースの強化を進めている。

取り組み中の施策（4/5：機能性多孔質体の海外新仕向け地展開）

- **【ポラスマテリアル】** PVA製品の用途展開と仕向け地の拡大。
- ✓ 主要仕向け地の米国ではペット用や船舶用など新たな用途での展開に向けたプロモーションを強化。
- ✓ 新規仕向け地においては産業資材、生活資材ともに現地ニーズに合わせた製品提供を進める。

既存仕向け地・米国における取り組み



自動車用セームの販売が中心であった米国において近年ペット用、船舶用としてのニーズ増加を把握。今後もペット関連の展示会への出展を継続して行い現地でのプロモーションを強化する。

新規仕向け地における取り組み



【韓国】
スポーツ用として現地ニーズに沿ったカラーセームやプリントセームを提供。

【カタール】
自動車用セームを提供。

【インドネシア・フィリピン・タイ】
プリンター用部材を提供。

【オーストラリア】
船舶用セームを提供。



取り組み中の施策 (5/5 : 鈹金・運転教習ノウハウ活用による新サービス開発)



■ 【ファインケミカル・サービス】 デジタル技術の活用による新提案

- ✓ センシング（計測制御）技術の活用や、既存サービス事業の知見のデジタル化による新たな製品・サービス開発の推進
- ✓ 自動車の保有・利用形態変化に対応した新たな自動車美装製品・サービス開発の推進

新グループ会社 株式会社ハネロンの保有する
電子機器・ソフトウェア開発技術とのシナジー発揮

- ・ 情報通信技術
- ・ 組み込みソフトウェア技術
- ・ 計測制御技術
- ・ 各種アプリケーション開発

生産・サービス現場での
センシング技術の活用



プロフェッショナルの知見を
デジタル化・共有化



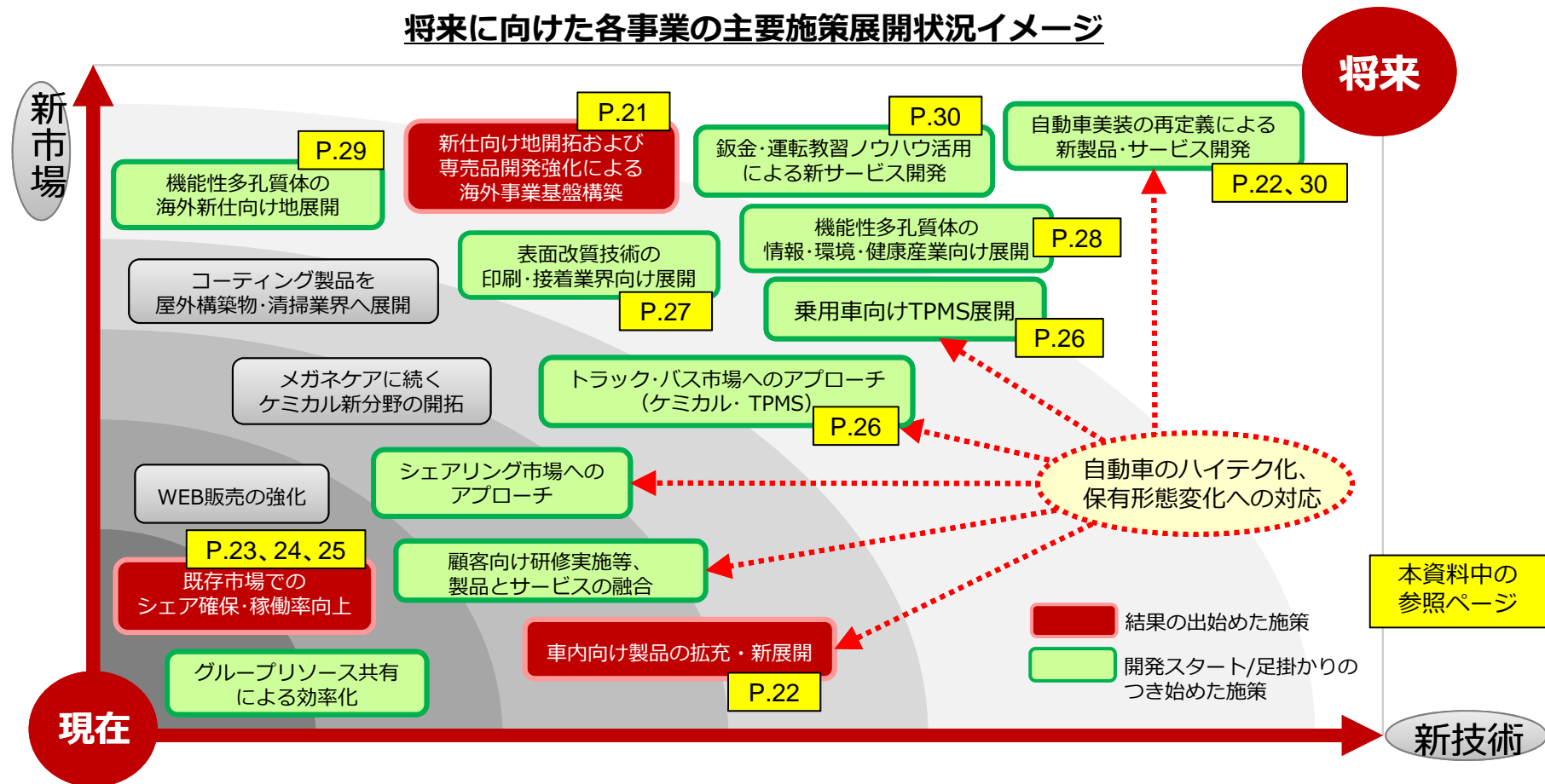
自動車保有形態の変化に合わせた
新たな自動車美装



当中期経営計画の全体進捗状況

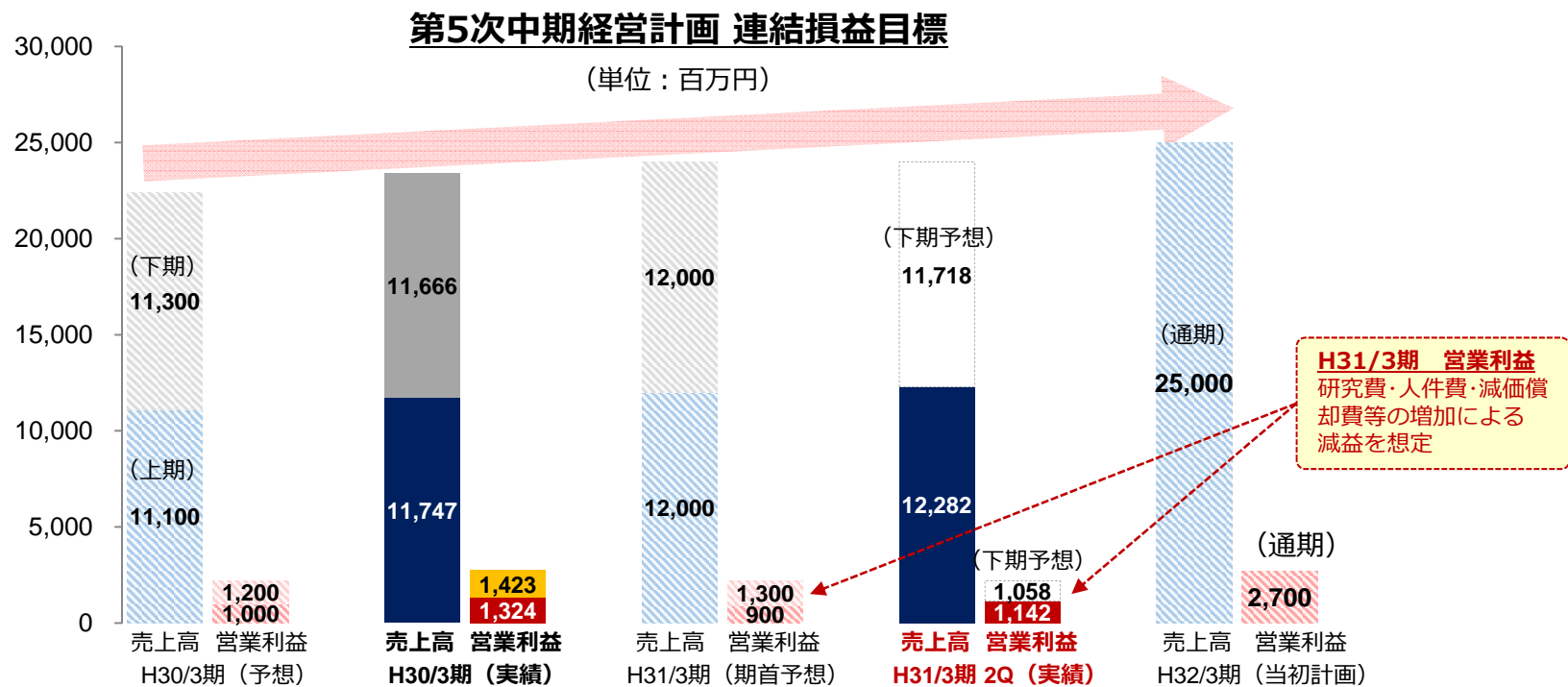
- 自動車のハイテク化・保有形態変化への対応を重点的に進めている。
 - ✓ 新たに取得した電子機器開発ノウハウの活用、新製品・サービス開発への研究投資を拡大する。

将来に向けた各事業の主要施策展開状況イメージ



損益計画の進捗状況

- 当期（平成31年3月期）は、新市場への挑戦を目指し、将来に向けた新製品・サービス開発や生産設備増強への取り組みを行うことで増収減益を想定。
 - ✓ 当第2四半期は前期比 増収減益、計画比では営業利益が想定を上回る進捗となった。
 - ✓ これは主に研究開発費・販売促進費等の費用の発生が後ろ倒しになったことによるものであるため、当期の通期業績予想は期首予想（連結売上高240億円、連結営業利益22億円）を維持する。



第5次中期経営計画 『SHIFT-DOWN!!』

株主還元の方針

- 株主還元については安定的な配当の継続を基本方針とし、平成30年3月期より『営業利益の20%』を株主還元の目安とする。
- 内部留保は将来の事業拡大と経営体質の強化のための投資に活用。

配当実績と配当予想

	平成29年 3月期 (実績)	平成30年 3月期 (実績)	平成31年3月期 (実績・予想)
連結営業利益 (百万円)	2,419	2,747	2,200
連結純利益 (百万円)	1,790	1,919	1,600
配当総額 (百万円)	458	478	488
一株当たり中間配当額 (円)	10.0	11.0	11.0
一株当たり期末配当額 (円)	11.0	11.0	11.5
一株当たり年配当額 (円)	21.0	22.0	22.5
配当総額÷営業利益	18.9%	※ 17.4%	22.2%
(参考) 配当性向	25.4%	24.8%	30.5%

平成30年10月31日に期末配当予想の修正を実施。
期首予想の11.0円/株から11.5円/株へ、
0.5円/株の増額。

※ 自己株取得による株主還元を含まない。

※ 期中に取得を決議した自己株取得93百万円を含むと、平成30年3月期の総還元額÷営業利益は20.8%となる。

長時間に亘り、
ご清聴ありがとうございました